

頬など口の外から、飲み残しがないかを検知できる機器の開発

- 高齢者で薬を服用する際に、口の中に薬が解けずに残っている場合がある。
- 例えば、舌の下など目視でも確認しにくい所に残っていたりするため、介護者では気づきにくい。
- 薬の必要量が服用できないため、問題となっている。
- また、のどに詰まったり、誤嚥などの危険もある。



- 口の中に残っている薬を検知できるような機器によって確認することで、飲み残しを防ぐ。
- 例えば、頬のあたりにピッとセンサーを当てると検知できるなど。